



定平 元四良教授

定平元四良教授記念号によせて

社会学部長 遠 藤 惣 一

定平元四良教授は今年3月末に定年退職されます。文学部時代から実に39年間の長きにわたって関西学院大学に在職され、まことにお名残り惜しいという外ありません。

定平先生は昭和25年3月に関西学院大学文学部社会学科を卒業され、同年9月に同学科の助手に就任され、昭和29年に専任講師に昇任され、さらに昭和32年には助教授に昇任されています。昭和35年社会学部が新設されるとともに社会学部の助教授として転任されました。助手時代から社会学部の初代の学部長を務められた大道安次郎先生を補佐され、文字通り本社会学部発足の立て役者のひとりであります。先生は昭和40年には教授になられ、さらに昭和44年に大学院社会学研究科修士課程指導教授をも務められることになりました。

定平先生は、前述のように学部創設期から学部運営に貢献されてきましたが、特に昭和44年に教務主任をされていた時、同年2月から3月末の学年末まで、当時の学部長の杉原方先生が病氣療養の間、学部長の代行をされました。昭和44年は当時全国的に猛威を奮っていたという表現が当たっているような大学紛争の炎が関学をも襲っていました。昨年1988年にその昭和44年卒業生の同窓会が20年ぶりに開かれ、記念に一本植樹をしていただきました。当時図書館前の大学のシンボルというべき2本の杉の大木がバリケードのために切り倒されて、紛争の末期的状況を呈していたのを思い出す時、感無量の思いに駆られます。定平先生はまさにその時学部長代行として処分問題、大衆団交などの試練に立たされ、随分苦勞されたのを、当時私は丁度学生副主任として学部執行部に入っていましたので、よく承知しています。これらの試練を経て大学、学部の一連の改革がなされましたが、先生のご苦勞もそれによって報いられたというべきでしょう。

先生はさらにその後学院運営にも貢献されました。昭和46年4月に関西学院総務部長事務取扱、同年7月には総務部長の要職に就かれ、48年まで務められました。

次に先生のご研究について述べなければなりません、同じ社会学といっても私の専門とはかなりかけはなれていますので、とても的確なことは申しあげられません。しかし社会学部紀要に発表されている論文を通読する限りの紹介をさせていただきますと、先生は本学部のカリキュラムでは第1類の社会思想史（東洋）を担当され、ご専門も日本を中心とした社会思想史の研究を続けてこられ、もし先生の研究内容をキーワードで表現すると

すれば、社会主義思想、宗教論、国家主義思想ということになるのではないかと拝察いたします。初期のご関心は明治初期の社会主義思想について特に社会主義運動とキリスト教との関連を追究され、次に日本の精神史、思想史におけるナショナリズム、国家主義思想の形成と跡付けを特定の思想家の分析を通して解明され、同時に一貫して日本思想史における宗教の意義を問題とされており、とくにキリスト教の果たした役割、影響については特別の関心を払われたようで、この点の先生の業績は大変評価されるものがあると考えます。

最後に、先生はこの数年病気に悩まされるという不幸に見舞われ、大変不如意な生活を余儀無くされました。その点大変心残りのまま、定年退職されることになり、先生のご心情を思う時、言葉もございませんが、今後は一日も早い病氣平癒を祈願し、先生のますますのご活躍を念願する次第です。